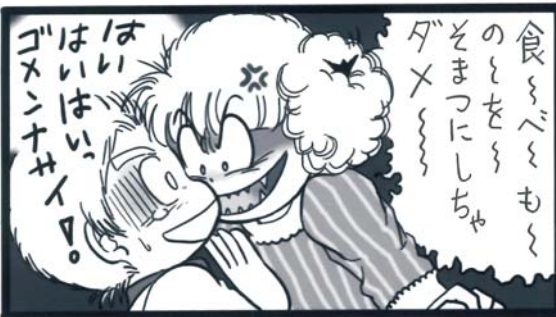
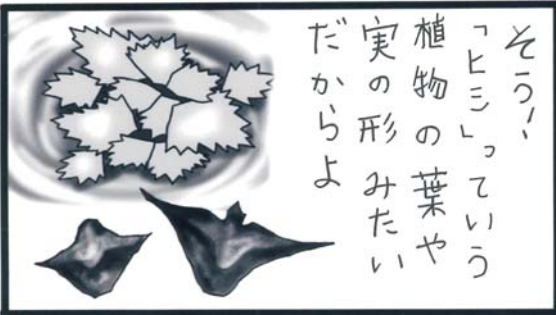


第50回 ヒシ

カコウちゃん かほくがたチルドレン



水面に浮く水草（浮葉植物）です。水底から種子が発芽して長い茎を伸ばして水面に至ると三角形（菱形）の葉を展開します。葉は放射状に水面に拡がります（ロゼット）。葉柄は膨らんで空気を含み浮き袋となります。さらに横にシュートを伸ばして株分かかれして増えていき、それぞれの株は水中に根を伸ばします。条件が良いと大きな群落をつくります。花は直径約1cmで水面に出て咲き、白い花卉が4個あります。果実は菱形で、熟すと水に浮きます。

ヒシの実はとても良質のデンプンやビタミン類を含んでおり、栗や芋のように蒸したり茹でたりして食べることができます。栗を上品にしたような味で、たいへんおいしく食べることができます。ただし栗と同じで、おいしいものにはトゲがあります。鋭いトゲが2本でています。近縁のオニヒシでは4本のトゲがでています。忍者が撒菱にしたのはこちらのようです。

ヒシは、全国の湖沼で最も普通な水草といわれています。河北潟でも、かつては西部承水路は東部承水路、金腐川河口域、宇ノ気水辺公園付近などで大きな群落が毎年発生していましたが、最近では、東部承水路に時々発生するくらいで、他の地点では消失してしまいました。全国的には、浅い富栄養湖などヒシが増えている報告が多く見られますが、河北潟では逆に減っており、その理由は定かではありませんが、アカミミガメが増えたことが関係してるのではないかといい意見があります。

夏になると、ヒシの葉にミミズが這ったような穴がたくさん空いています。よく見ると小さな虫がいっぱいついています。ジュンサイハムシです。ヒシはジュンサイ

ハムシに食べられながらもさらに勢よく増えていきます。ジュンサイハムシも負けじとさらに食欲旺盛にヒシの葉を食べ増えていきます。ヒシは水中に根を伸ばすので、水中の栄養分を取り入れて葉を増やします。その葉を食べたジュンサイハムシが飛んで他の場所に移動したり、他の動物に食べられたりして、食物連鎖により水中の栄養分が水系の外に運ばれます。ヒシは、水質浄化にも役立っていると思われます。ただし、繁茂しすぎると水中に光が届かなくなり、水中の酸素も不足して問題があるようです。多くの富栄養化した湖やため池ではそうした問題が起こり、ヒシの刈り取りが行われています。

石川県では、一時期、河北潟の菱をたい肥にする実験を行っており、出来た堆肥の性能も良かったと聞いておりますが、その後は実用までは至っていないようです。（文：高橋 久）